

中国、新エネ車（NEV）販売台数もマイナスへ

◆2019年第3四半期の成長率は6.0%、所得倍増計画に黄信号か

中国の2019年1～9月期の国内総生産（GDP）の対前年同期比の伸び率は6.2%となった。1～3月期6.4%、4～6月期6.2%、7～9月期6.0%と徐々に下がっている。19年の目標は6～6.5%だが、10年比で20年にGDPを倍増するという目標を達成するには、19年、20年と6.2%の成長目標が必達になっており、この目標達成に黄信号が灯ったといえる。

◆2年連続で前年割れが濃厚な自動車販売台数

1～9月期の工業生産指数は前年同期比で5.6%（1～6月期6.0%）の伸び、固定資産投資が同5.4%（1～6月期5.8%）、社会消費品小売総額が同8.2%（1～6月期8.4%）といずれも1～6月期に比べて伸び率がマイナスポイントとなっている。

特に消費関係では、18年に前年比2.8%減の約2,808万台にとどまった新車販売台数が15ヵ月連続で前年割れを続けており、1～9月期は前年同期比10.3%減の1,837万台に留まるなど、2年連続で年間ベースでの前年割れが濃厚となっている。

また世界一のEV大国となった中国であるが、NEVも、7月▲4%、8月▲16%、9月▲34%と3ヵ月連続で販売台数が前年同月比割れとなった。3月に発表された中央政府による補助金の大幅

減（約50%）や地方政府の補助金廃止に対する経過措置や移行期間が、6月25日で終了した影響も大きい。中央政府の補助金も20年を最後に打ち切られる。

景気の減速のもと、自動車販売台数、NEV販売台数ともに鈍っている中、米テスラが「ギガファクトリー上海」でBEVの生産を開始する。中国のNEV市場が補助金なしでどこまで拡大できるのか、引き続き注目したい。 【森山博之】

